6,000社達成記念 感謝の集い ｜ 森トラスト株式会社

# AI時代だからこそ、経理はおもしろい。

プロシップとの対話から見えてきた、これからの経理とDX



# 建物を「つくる」だけでなく、自ら「運営する」会社です

オフィス・ホテルなどを自ら運営しているからこそ、現場の課題が見えてきます。




**BUILD**

## つくる

オフィス・都市開発、投資

**OPERATE**

## 運営する

ホテル・リゾート、そして
自社のオフィス

**運営の現場にいるから、**
**見えてくる課題がある。**

**その一つが、オフィスの運営。ここから今日の話が始まります。**

# オフィス運営の現場から生まれた WORK AGILE

「誰が、どこで、どう使っているか」を見える化する、自社運営のための仕組みです。




WORK AGILE 現行の画面イメージ（座席管理）

## 座席・会議室を予約する

現行機能

空席を図面で確認して、予約・チェックイン

## 誰がどこにいるか分かる

現行機能

拠点・フロアを横断して、所在を把握

## 日常のデータを、有事にも

現行機能を活用

在館者数をフロア別に把握し、災害時の初動にも

**オフィスを運営する中で行き着いたのは、「人の見える化」でした。**

# 実は、経理が台帳でやってきたことと同じ発想だった

「何が、どこに、どの状態か」を把握する。経理の力は、そのままDXの力になります。

| WORK AGILE | | Proplus |
|---|---|---|
| 従業員 | 何が | 固定資産 |
| 座席・フロア | どこに | 設置場所・部門 |
| 在席・退席済 | どの状態 | 稼働中・除売却済 |

WORK AGILE の対象は「人」　Proplusの対象は「資産」　違いは、それだけ

**同じ発想なら、対象を「人」から「モノ」に広げられる。**

# 「モノ」に広げると、経理の仕事とつながる

什器・設備・防災備蓄の所在がつかめれば、ProPlus の固定資産台帳と突き合わせられます。

構想

## WORK AGILE

**人 → モノへ。現物の所在**

- ✓ 什器・モニター・設備
- ✓ 防災備蓄
- ✓ どの部屋・フロアにあるか
- ✓ 現物は存在するか

**現物 × 台帳**

**現場と会計をつなぐ資産管理**

## ProPlus

**固定資産・会計情報**

- □ 資産番号
- □ 取得価額・簿価
- □ 設置場所・部門
- □ 稼働・除売却済

**現物と台帳をつなぐ。それが、次の構想です。**

# AIが見つけて、経理が判断する未来

オフィスや設備が、データの上にもうひとつ存在する。その未来で、AIと経理が担う役割を考えます。

構想

現場

## WORK AGILE

人・モノ・空間が
日々、データとして更新される

- 座席・所在
- 設備・備品
- 防災備蓄

DIGITAL TWIN

**データの上の
もうひとつのオフィス**

現物と台帳が、
常に一致している状態

### AIが担う

台帳との照合
所在不明資産の検知
棚卸候補の抽出・異常の気づき

### 経理が担う

資産計上・除売却の判断
例外の見極め・評価
経営への報告

**AIが現場を見守り、経理が数字に意味を与える。**

# プロシップ様との関係も、変わってきました

ユーザーとして始まった関係が、対話を重ね、次のステップへ。

USER

## システムを使う

会計・固定資産の実務を
支える存在として

DIALOGUE

## 会計・AI・DXを語り合う

ユーザー会や面談で、
対話を重ねる

CO-CREATION

これから

## 一緒に新しい価値を考える

これから描いていきたい姿

プロシップの皆様との対話が、私たちの視野を広げてくれました。

**正解をもらう関係から、一緒に問いを考える関係へ。**



# だから 経理はおもしろい。

## AIを使って、もっと経営に近づける。

これからの経理は、数字をつくる人から、会社を変える人へ。

6,000社達成、誠におめでとうございます。　ご清聴ありがとうございました。

プロシップ × 森トラスト